

## 調査報告

## 大学生は絵本「フレデリック」をどう読んだか

大 滝 まり子

## About the Students' Essays on the Picture Book :“Frederick”

OTAKI Mariko

## 1 問題の所在

筆者は、札幌市内の4年制大学で、幼稚園教諭の免許状に関わる科目「幼児指導法」を教えており、その講義時間の終わりに時々絵本を読む。読む絵本はその時間の講義内容に必ずしも関連したものではないが、幼児教育に携わる学生に知っておいてほしい絵本を選んでいく。

読んだときには絵本の感想を書いてもらうのであるが、もちろん、学生たちが筆者と同じ感想を持つとは限らない。それどころか、「何を言いたいかわからない」という感想に出会うこともよくある。学生たちが1冊の絵本から読み取るメッセージは、各人の人生観、価値観のフィルターを通して実にさまざまであるし、絵本にどれだけ親しんできたかによっても異なるようである。しかし、どのような感想を抱くにしても、その根底にほぼ共通しているのは、「絵本には子どもへのメッセージがあるはずだ」という考えである。

今学期も何冊か紹介してきたが、11月16日

の講義時間の終わりに、「フレデリック」(レオ＝レオニ作)を読むことにした。「フレデリック」は「ちょっと かわった のねずみの はなし」と副題がついている。

この本を読んだのは「集団と個」という章を終えたときであったが、講義内容と「フレデリック」を結びつける話は一切していない。この場合、学生は絵本のメッセージとして、何を見出し、どのように評価するのだろうか。果たして講義内容は、この感想に影響を与えたのだろうか。

## 2 調査方法

(1) 対象 幼稚園教諭免許取得のために「幼児指導法」を選択している大学生1年目から5年目までの53名(女子35名 男子18名)

文中では 1年男子、5年女子などと表記。

(2) 方法 「今日は『フレデリック』という絵

本を読みます。最後に感想をできるだけたくさん書いてください」と言って、A5の紙を配布した。

子どもたちに絵本を読むのと同じく、絵本を見せて読み進めた。読む速度（各ページを見る時間と絵本の中の詩の読み方）は、子どもに読むときよりも、少し早めであった。読み終わった後10分くらいで感想文を回収した。

次に、上記の自由記述の感想文を、下記の視点で検討した。

- ① 絵本の主題の捉え方
- ② フレデリックをどう見るか
- ③ フレデリックと他の4匹の関係をどう見るか
- ④ 他者と異なる行動について
- ⑤ 全体的な感想

### (3) 読んだ絵本の概要

「フレデリック」ちょっと かわった のねずみの はなし

作 レオ＝レオニ

訳 谷川俊太郎

好学社、初版1969年

(内容) のねずみが5匹、石垣の中に暮らしていた。冬が近いので、のねずみたちは、せっせと食べ物を集め始めたが、フレデリックだけは働かない。どうして働かないのかと問う仲間に、フレデリックはおひさまの光を集めていると答える。その後もいっこうに働かない彼にみんなすこし腹を立てて、夢でも見ているのかいと聞くが、フレデリックは色やことばを集めていると答える。

冬になり、5匹は、はじめは食べ物もたくさんあって楽しかったが、やがて食べつくし、凍えそうで、おしゃべりする気にもならない。そこで4匹は、まえにフレデリックが言ったことを思い出し、彼が集めたものはどうなったのかとたずねた。

フレデリックは、目を閉じてごらん、と話し始める。4匹は彼のことで夏の風景を思い描く。なんだかあたたかくなってきた。次にフレデリックは詩を披露する。4匹は拍手喝采し、フレデリックを詩人だという。彼は「そういうわけさ」とはずかしそうに言う。

## 3 結果と考察

### (1) 絵本の主題のとらえ方

表1 絵本の主題の捉え方

|                                                        |    |
|--------------------------------------------------------|----|
| ①初めは「アリとキリギリス」のキリギリスのように、フレデリックが痛い目に合うと予測したが、そうではなかった。 | 9人 |
| ②落ちが分かりにくい、メッセージが分かりにくい。                               | 4  |
| ③今まで読んだことのない変わった話。                                     | 1  |
| ④記述なし                                                  | 39 |

「冬に備えて働くもの」と「働かないもの」の対比から、イソップの「アリとキリギリス」を連想したものは9人であるが、記述全体から見て実際には9人以外にもいたのではないかと考えられる。ただし この9人の記述も一様ではない。「なんと食料が尽きて苦しむねずみたちに、精神的な癒しを与えるという予想外の結末」(2年男子)という受け取り方、「フレデリックに詩人のような能力がなかったら、『アリとキリギリス』状態になってしまうと思った」(1年男子)、『「アリとキリギリス」と決定的な違いがあった。それは仲間のためにする、という気持ちを持った個性である。』(3年女子)など、「アリとキリギリスとの違い」の捉え方が異なるのである。

また、②の「落ちが分かりにくい」と「メッセージが分かりにくい」は同じではないが、「作者が伝えたかったことが明確でない」という意味であると考え、同じ項目にまとめた。この②に分類した4人は全員1年生で、うち3人は男子

学生であった。受験勉強における「正解へのこだわり」が強く残っているために、絵本の主題のような正解の見えないものをとらえきれず、「落ち」がないことに戸惑ったのであろうか。

(2) フレデリックをどう見るか

表2 フレデリックの見方

|                                                     |     |
|-----------------------------------------------------|-----|
| ①彼は怠け者に見えたかもしれないが、結果的にみんなを助けてよかった。                  | 16人 |
| ②彼のようにゆったり構えられることは素晴らしい。信念を持っている。彼のよさが生きている。(信頼と肯定) | 13  |
| ③結果的にみんなを助けたが、みんなが彼のようにするのは命に関わることもある。              | 2   |
| ④彼はずるい。怠け者。                                         | 2   |
| ⑤その他 集団の中で変わっている存在、神がかり的 など                         | 6   |
| ⑥記述なし                                               | 14  |

(2) - 1 フレデリックを肯定的に見るか否か、

表2の①と②はフレデリックを肯定的に見ているが、①は、みんなが働いているときの彼に批判的な眼を向けたり、不安を感じたりしていた場合である。これに対して②は、フレデリックの言うことを信じて、その独自性に好感を持っていた場合である。①の感想から2人の意見を紹介する。「彼はうまい言い訳をして働かず、後で痛い目を見るのかなと予想していたが、最後に他のねずみを助けるという夢のある話だった。」(4年男子)。「彼の行動は他の4匹から見たら単に怠けているように見えただろう。彼の答えはただの言い訳やごまかしのように聞こえたが、冬に4匹はフレデリックの集めたもので楽しんだ。彼も受け入れられていて、うれしそうで良かった。」(5年女子)。

次に②の例を挙げる。「フレデリックが仕事をしていなかったといえはそうかもしれないが、太陽のひかりなどを集めることは、彼にしかなかった。」(1年女子)。

「他と違って彼のよさ、自分らしさがある。それは彼が自分自身をよく理解しているからではないか」(4年男子)。「彼は、サボっていたのではなく、彼らしいやり方で冬に備えていたのである」(2年女子)。

他方、表2の③と④は、フレデリックを否定的に見る立場である。③は、結果は良かったが、みんなが彼のようにするわけには行かないという意見であり、④は、結果を問題とせず、みんなと一緒に働かなかったフレデリックを怠け者だと言う意見である。「彼はサボっているうちに、みんなのためにという気持ちがでてきたのかもしれない。彼は危ない橋を渡ったと思う。食料は死活問題だ。仕事を手伝わらないから食料がなくなったといわれればそれまでだ」(2年男子)という意見は、フレデリックの行動を疑い、食料集めをしなかったことを徹底的に責めているようである。

また、「私が働いている側なら、ずるいなど、うらやましく思うかもしれない」(3年女子)という意見もあり、自分なら他に同調してしまうだろうが、実は働かないフレデリックが「うらやましい」という心理が正直に述べられている。ただし「働かないこと」自体がうらやましいのか、「自分の信念を持って独自の行動をとること」がうらやましいのかは明確ではない。ここでは、フレデリックを「ずるい」と言っていることから、④に分類した。同じく④に入れた中には、「彼は他の4匹がいたからこそ評価されたのであり、彼自身はやはり怠け者だ」(2年男子)という意見もあった。

(2) - 2 その他の見方

⑤にはフレデリックに対するさまざまな見方をまとめたのであるが、その中に次のような見方もあった。「フレデリックが受け入れられたのは、個性というよりは、神がかり的な技によって、他のねずみたちに畏怖の念を抱かせた

からに他ならない」(1年男子)。宗教的な精神操作があったとする見方は筆者には全く予想しなかったもので、他の学生にも、類似の考えを示したものはなかった。

このほか、「この絵本の言いたいことが分からない」と書きながらも、「怠けていてもどうにかなるということか、それとも食糧問題は どうにもならないがみんなの気持ちを盛り上げたから意味があるのか」(1年男子)と二つの解釈を示しているものもあり、これは⑤に含めた。

### (3) フレデリックと他の4匹との関係をどう見るか。

表3 フレデリックと他の4匹との関係

|                                                                                  |                   |
|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| ①フレデリックに腹を立てた場面もあったが、責めたり、見捨てたりせず、彼を認めた。<br>お互いに相手を必要とした。<br>周りが気のいいねずみだっただけ。    | 17人<br>(2)<br>(1) |
| ②フレデリックを無理やり働かせたり見放したりしていたら、彼の個性に気づけなかった。温かく見守ることが大切だ。何を集めているのか聞いたから、心温まる冬をすごせた。 | 10                |
| ③4匹は生き延びることしか考えていなかったが、フレデリックは楽しく生活することを考えていた。                                   | 1                 |
| ④フレデリックは怠け者にも見えるが、精神面に影響を与えた。                                                    | 1                 |
| ⑤フレデリックに畏怖の念を抱いた。                                                                | 1                 |
| ⑥最後にフレデリックは受け入れられたが、彼に才能がなければ認められなかったり、おなががすいたり、村八分だったろう。                        | 7                 |
| ⑦記述なし                                                                            | 16                |

(3)は、(2)の「フレデリックをどう見るか」と対の関係にある視点である。4匹がフレデリックを受け入れているという点では表3の①と②は同じであるが、①は冬になってフレデリックを認めたという見方で、②は彼が働かなかったときから見守り、受け入れていたという見方である。また⑥は、4匹はフレデリックを受け入れたが、彼に才能がなければ認められな

かったし、痛い思いをしただろう、とハッピーエンドにならない可能性を重視している。

筆者が興味を持ったのは、まず、①の次の意見である。「他のねずみは不満そうにしながらも、フレデリックを強制して働かせようとはしなかった。冬になって、自分たちが集めたものがなくなったとき、彼に機会を与えて、それでみんなが幸せになって、フレデリックはみんなに喜ばれていた。他のねずみは彼を見捨てず、最終的に認めている。」(2年女子)。「彼に機会を与えて」、「彼を見捨てなかった」という4匹の行動は、4匹の心のゆとりと主体性をとらえており、このようなとらえ方をした学生の心のゆとりも感じさせる。また、②の「何をしているのと問いかけることにより、フレデリックを一人ぼっちにしなかったのだと思う」(1年女子)という意見も、4匹が彼を無視しなかった様子をしっかりと捉えていると感じた。

### (4) 他者と異なる行動について(複数回答)

表4 他者と異なる行動のとらえ方

|                                          |     |
|------------------------------------------|-----|
| ①個性は集団の中で育てられるもの。集団が受け入れることが大切。          | 13人 |
| ②人と違ったことをすると受け入れられないこともある。責任を伴う。集団行動も大切。 | 12  |
| ③みんな一人ひとり違っている。その人だけができる何かがあるはず。         | 8   |
| ④人と違ったことをするには理由がある。偏見を持たないことが大切。         | 6   |
| ⑤個性と認められるのは結果次第。                         | 3   |
| ⑥他と違う行動だけでなく、4匹の行動も評価すべきだ。               | 1   |
| ⑦個性を育てたり、認めるには時間がかかる。                    | 1   |
| ⑧記述なし                                    | 18  |

#### (4) - 1 講義の影響が現れたか

フレデリックのとらえ方に、筆者の講義が反映していると考えられるか、ということについては、「影響している」と考える。しかし、それは、筆者の考え方が、感想の内容にそのまま反映し

ているということではない。たとえば、「先生の講義で聞いたように」という意味の記述がいくつもあったが、筆者が話したことは各学生の解釈を通して「理解」されているのであり、必ずしも意図したとおりに受け止められているわけではないし、基本的には筆者と同意見でも、具体例への応用では「ずれ」が有るということもある。

従って、ここで「講義の影響がある」と考えるのは、「集団と個」の枠組みでこの本を受け止めた学生が予想外に多かったということの意味している。この本は、(5)で後述する別の枠組みで読むこともできるのであるが、それについて述べた者はいなかった。

①は当日の講義内容を比較的忠実に反映している。また、③、④は、教育、保育で一般的によく言われることだと思われる。そこで、ここでは最初に②を見ることにする。

#### (4) - 2 人と違ったことをするときの責任とリスク

「自分の好きな通りに生きるには、責任が伴うことを教えなければならない。」と書いた学生は、(2)で、「フレデリックに才能がなければ村八分だったろう」と書いている。また、別の学生は「個性だけあっても評価されることはない。」と言い、他にも「人は周りと変わった人をあまり認めようとしなない。いじめにつながることもある」、「もし自分が4匹の中の1匹だったら、フレデリックの個性として受け止められない。」(1年男子)という感想もあった。

#### (4) - 3 個性とは

次に⑤を見てみよう。「社会に受け入れてもらえるかどうかは、社会の要求に最大限こたえられるかどうかだと思った」(前出B)、「人と違うことをすることに、信念を持ってやっただから認められた。彼が何もせずにただの怠け者

だったら仲間たちは納得がいかない。」(1年女子)。つまり⑤は、ただ変わっているだけでは個性として認められず、みんなの役に立たねば個性とは認められないという意見である。

### (5) その他の全体的な感想 (複数回答)

表5 「フレデリック」全体についての感想

|                                                |     |
|------------------------------------------------|-----|
| ①この絵本を子どもの指導に使うとよい。子どもに読ませたい。                  | 11人 |
| ②個性や人間関係について考えさせられた。                           | 8   |
| ③子どもの指導に生かしたい。一人ひとりを大切に、公平に。                   | 8   |
| ④絵の印象 かわいい、きれい                                 | 7   |
| ⑤講義内容の「集団と個」に関連した絵本                            | 6   |
| ⑥フレデリックへの共感 自分と似ているなど                          | 6   |
| ⑦子どもの感想を知りたい                                   | 5   |
| ⑧子どもに読むには問題がある。難しい。悪影響がありそう。                   | 4   |
| ⑨季節に合った絵本<br>(注 11月16日に読んだ)                    | 4   |
| ⑩子どものときに読んだ。子どもの時から読んでいる。                      | 3   |
| ⑪詩について                                         | 2   |
| ⑫その他 宗教がかった話、フランスの暴動(2005年)を想起(少数者の扱われ方について)など | 9   |
| ⑬記述なし                                          | 10  |

表5には、この絵本全体についての多岐にわたる感想をまとめたのであるが、他のセクション(1)～(4)で見てきたように、1冊の絵本が相反する感想を生み出しているのは大変興味深い。まず①と⑧の感想を読み比べることにしたい。

#### (5) - 1 「フレデリック」は子ども向きか

ハッピーエンドの絵本であるから、①のような感想が出ることは予測できるのだが、「子どもに読ませたい」理由は一様ではない。「人と違うことをしている子に対して偏見を持ちがち

だが、そのように見てはいけないことを示唆している。子どもにぜひ読んであげたい。」(4年女子)、「この絵本で、みんなと違うことも大事だと気づくことにつながればよいと思う」(2年女子)、「子どもからいろんな意見が出てくると思う」(1年女子)など。

一方、⑧は子どもに読むことにあまり賛成ではない立場である。なぜか。「落ちが分かりづらい。子どもには難解。心に残る絵本は単純な方がいいのではないか」(1年男子)、「どんなときでも自分の好きなことをやるのが良いことだと思ってしまうと、社会性を欠いた、現実社会を生きるのに都合の悪い人間になってしまう。この本は美德として掲げるのは良くない。」(1年男子)という理由である。『フレデリック』はそれほど危険な絵本なのであろうか。

#### (5) - 2 『フレデリック』は宗教的か

さて、「⑫その他」には、「修行に近い精神的活動をずっと続けて最後に救世主となって、民に救いを与えるというなんだか宗教がかった話」(前出)だと感じたというものがあつた。(1)で述べたように、これは筆者にとって予想外のフレデリック観である。実は、フレデリックを初めて読んだおとなからは、よく「芸術家の役割がよく分かった」という感想が聞かれる。今回はそうした意見は一つもなかったが、不思議な力で、人の心に働きかける仕事とすれば、宗教家と芸術家には共通する点があるのかもしれない。それにしても「宗教がかった」という表現からは、なにやらマイナスのイメージが浮かび上がる。

#### (5) 「子どもの感想」について

「⑦子どもの感想を知りたい」という5人の意見に対しては、「⑩子どものときに読んだ、子どものときから読んでいる」という3人の感想が参考になると考えられる。

「絵がとてもきれいでかわいくて、話の内容も心温まる感じが好きだった」(2年女子)、「フレデリックのようにひかり、ことば、色を覚えられたらどれほど素敵だろうと想像をふくらませていた」(1年女子)、「昔読んだときは、フレデリックがすごいとだけ思っていたが、(今読むとまた違って見えた。)」(1年女子)。これらは子どもの感想そのままではないが、子どもの読み方の例として興味深い。特に、フレデリックの才能に憧れるのは、今回の感想文にはあまり見られないものであつた。

## 4 まとめ

今回は、「感想をできるだけたくさん書いてください」という教示だけであつたが、学生は「集団と個」の講義の影響を受けていたように思われる。そして、他と異なる行動をするフレデリックを「個性的な存在」、他の4匹を「集団」と見ているようである。あるいは、筆者がそう受け取ってほしいがために、この本を読んだと思っている節がある。

しかし本書の副題は「ちょっと かわった のねずみの はなし」である。作者は、フレデリックの行動を真正面から肯定するというより、むしろ「フレデリックはちょっと変わっているけど、でもいいところもあるんだよ」と言いたかつたのではないだろうか。少なくとも、4匹を非個性的で集団同調的というマイナスのイメージで捉えているわけではないであろう。もちろん、読み方は人それぞれであるし、さらに、時代によっても、社会によっても、読み方は変わってくると思われる。

今回、この絵本が「集団と個」の枠組みで読まれたことにより、この学生たちの集団と個についての考え方が浮かび上がったということはいえるであろう。その一方で、芸術家の役割についての言及は非常に少なかつたが、これは授

業の流れの中で、学生の受けとめ方にバイアスがかかったためであろうか。それとも芸術家についての見方は特殊なものであって、実はあまり一般的な見方ではないのであろうか。

ところで、子どもの感想を知りたいという意見もあり、筆者にとっても興味深い点ではあるが、子どもには自由にそのまま受けとめておいてほしい。保育者や教師になろうとする学生の絵本体験や絵本研究とは異なり、子どもに感想をきいたり指導に生かしたいとする考えには賛成できない。子どもに読んでいけないというのではなく、子どもの感想を教師の狙いに合わせて方向付けるならば、一番大切な心の自由が失われてしまうことを危惧するからである。さらに「指導」の仕方によっては、本を読む楽しみも奪いかねないだろう。

今後は、授業内容に左右されない状況下で、他の学生グループや中・高校生に「フレデリック」を読み、その感想と、今回の結果を比較してみたいと考える。

## 参考文献

- 佐々木宏子 「絵本の心理学」 新曜社 2002年
- 十島雍蔵・十島真理 童話・昔話におけるダブルバインドー思惟様式の東西比較ー ナカニシヤ出版 1994年
- 守屋慶子 「子どもとファンタジー」 絵本による子どもの「自己」の発見 新曜社 1994年
- レオ=レオニ 「フレデリック」 好学社 1998年

